



訪問診療・往診専門

医療
法人

かさまつ在宅クリニック



かさまつ
通信

No.9

(平成28年8月)

学生実習のご報告

本年6月、徳島大学医学部医学科6年生の学外実習を受け入れ、在宅医療の現場をみてもらいました。多くの患者さんやご家族の方々にご協力いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。一部ではございますが、実習を終えての学生の感想を掲載させていただきます。

【在宅医療は必ずしも終末期医療を行うためだけのものではないのだなと思いました。認知症、高血圧、糖尿病などの慢性疾患の患者さんもいらっしゃいました。そのような慢性疾患の患者さんは、疾患だけが原因ではなく、社会的な背景も手伝って、在宅医療を受けていらっしゃいました。在宅医療とは、疾患だけを診るのではなく、疾患とともに社会的背景も含めて、患者さんを診る医療だと感じました。また、小児の在宅医療という分野があることを初めて知りました。障害のもつ小児には、退院後も、生活において様々な障壁が存在しており、小児の在宅医療はそれらの障壁を乗り越えるサポートをする医療だと学びました。社会からは見えにくい退院後の小児患者やその家族をサポートするのは本当にやりがいのある素晴らしい医療だと感じました。そのような医療があると学生のうちに知ることができて、とても良かったです。】

住み慣れた家で過ごす選択。小児も大人も、まだまだ課題は山積みですが、我々ができること、やれることをひとつひとつ取り組んでいき、そのなかで、次世代の医学生や若き医師達にも一緒に考えてもらう機会をこれからもつくっていければと思っております。今後ともご協力よろしくお願い申し上げます。

(院長 笠松 哲司)

※本文の内容と写真とは一切関係ありません。



～保険証・受給者証等ご提示のお願い～

『後期高齢者医療被保険者証』、『重度心身障害者等医療費受給者証』、『限度額適用・標準負担額減額認定証』、『介護保険負担割合証』は毎年7月31日まで、『国民健康保険被保険者証』、『特定医療費(指定難病)受給者証』は9月30日までの有効期限となっております。(※有効期限が短い場合などもありますので、ご注意ください。)

新しい保険証・各種受給者証等がお手元に届きましたら、訪問時に確認させていただきますので、ご準備の程よろしくお願い致します。なお、その他の保険証等につきましても、変更があった場合はその都度ご提示くださいますようお願い致します。



〒770-0932 徳島市仲之町2丁目8番地2

TEL:088-679-6393

FAX:088-679-6394

HP: <http://www.kasamatsu-zaitaku.net>





訪問診療・往診専門

医療
法人

かさまつ在宅クリニック

かさまつ
通信

No.9

(平成28年8月)



暑中お見舞い申し上げます。

例年になく猛暑が続いておりますが、皆様お変わりありませんでしょうか？このところ「例年になく暑さ」というフレーズを毎年使っているような気がします。先週末は気温が35℃にも迫る中、息子のラグビー遠征に付き添ってきましたが、往復の長距離運転に加え、自分の日傘以外の影がない過酷な炎天下での応援は、体力が文字通り吸い取られそうになりますね。小学生に負けない体力をつけなければと反省した次第です。

さて、私は去る6月19日、岡山県倉敷市の倉敷中央病院で開催された第10回小児在宅医療実技講習会に参加してきました。3年前に第3回の講習会にも参加しましたが、今回は更に濃い内容の講習会でした。

朝10時から17時まで、ほぼ休憩のないスケジュールの中、気管切開を含む人工呼吸器管理や胃瘻の管理方法、小児在宅医療を取り巻く福祉制度、多職種連携などについての講義を受けました。また、実際にいろいろな新しい医療器具のデモンストレーションがあり、ミキサー食の実演や呼吸器リハビリテーションの実習もありました。

呼吸器リハの実習では、実際に2人一組になり、マットの上に横になって排痰介助の練習をしました。見た目にはただ胸郭を押さえているようにも思えますが、介助してもらうことにより呼吸しやすくなることが実感できました。体感するということが大切なことですね。

倉敷市内には小児在宅患者を数多く担当するクリニックも多く存在し、例えば人工呼吸器を使用しているような重症心身障がい児の方でも地域で安心して暮らしていけるようなシステムが構築されています。また、ご家族の方にも、今後どのような環境で育ててほしいのか、学校はどこへ行かせたいのか、どのような大人に成長してほしいのかなど、今後の「見通し」を書き出してもらっているということがとても印象的でした。

「病院から家に帰ること」がまずは最初の目標になりますが、「その後在宅で療養を続けて行った先にどういう未来を描くのか？」そういう発想は私の中にはまだなく、とても重要なことであると気づきのあった講習会でした。

(小児科 笠松 由華)



☆呼吸に合わせて胸郭を動かし排痰を促します。



☆胃瘻から注入するミキサー食をブレンダーで作っています。

材料は「コンビニの幕の内弁当」